

フィレンツェ：芸術都市の創造

ダンテからルネサンスへ 歴史の視点から

ダンテフォーラム2009「芸術都市の創造II 世界遺産モデル・フィレンツェに学ぶ」
樺山紘一 印刷博物館館長・東京大学名誉教授 講演資料
<http://www.angel-zaidan.org>

ダンテの生きた時代：中世の暮れ方

- 1265 フィレンツェに生まれる
- 1283 ベアトリーチェに会う
- 1292 『新生』を書く
- 1302 政争でフィレンツェを追われる
イタリアを遍歴
- 1303～ 『俗語論』
- 1307～ 『神曲』にとりかかる
- 1310～11 『帝政論』
- 1321 ラヴェンナで死去

イタリアという坩りどころ

その時代、イタリアは都市国家の争いだった

フィレンツェは、後発ながら先発のミラノや
ヴェネツィアに対抗し、トスカーナの小都市を
平定していった

『俗語論』と『帝政論』

ダンテを巻きこんだ皇帝／教皇の中世的な
普遍権力の対立

そのなかで、教会の価値とはちがう、イタリアの
世俗国家の価値を強調

ラテン語を尊重しながらも、イタリア各地の方言
を比較し、共通のイタリア語を追いもとめた

時間の水平線：中世からの古代眺望

どの都市国家もみな、古さと豊かさを強調する

そのなかで、ダンテは古代イタリアの栄光を
求める

詩人ウェルギリウスを賞賛し、イタリア人の
シンボルに

「最後のローマ人」という称号

すでに古代ローマは姿を消したが、ダンテはそのローマを全イタリア人の共通価値として称揚

同時代のイタリア人を、
正真正銘のローマ人の子孫として

それは、ローマ教皇がアヴィニオンに「捕囚」と
なっている時代だった

時間の地平線にローマという像が輝きつつ出現
した

空間の地平線：地中海という母郷

13世紀末、にわかに地中海が開放された
航海技術の大発展で、東から西へ
そして大西洋へと、地平線が広がった

地中海ははじめてヨーロッパ人が参画する
海の舞台となった

諸民族の交流と交錯が現実

アシン・パラシオスの仮説

スペイン人の古文献学者がダンテを解釈する
『神曲』の靈感はイスラムから来た！

イスラムとの距離はきわめて小さい

永遠の女性と人間の聖化

地獄と煉獄の宇宙を、イスラムと共有する

ダンテとともに拡大した地平線

ペトラルカとボッカチオがダンテを受けついだ

14世紀に起こったペストや動乱が終息した
とき、ルネサンスが開花する

それはイタリアをめぐる時間と空間の開放の
おかげだった

フィレンツェはルネサンスの精神の故郷

新しい時間と空間を投影するフィレンツェ

多様な芸術を支える精神が、この都市に

住みつく:ルネサンスのフロンティアとは

芸術都市の創造にとって、なにが必要だった

のだろうか

都市国家の競合を生き抜くフィレンツェ

そこからなにを読みとるか

—世界への地平線を拓こう